

## 「生命(いのち)の安全教育」実践事例

活動名	特別活動「自分の安全と他の人の安全を守るには？」		
学校名	海老名市立杉久保小学校		
学年	①5年生	人数	98人 特別支援学級児童を含む
日時	令和6年7月16日(火) 2時間目 9:45～10:30		
学年	②6年生	人数	111人 特別支援学級児童を含む
日時	令和6年7月17日(水) 2時間目 9:45～10:30		
取扱いの分類	人権・情報・防犯		
講師	養護教諭・市指導主事		
学習のねらい	<p>○SNSを利用するときの注意点がわかる。</p> <p>○距離感が守れないとき取るべき行動と相談することの必要性がわかる。</p>		
内容	<p>(導入)</p> <p>1 自分自身の驚いた体験について思い出し、その時の気持ちについて振り返る。</p> <p>(展開)</p> <p>2 驚く瞬間とは、どのような時か考える。そのときの気持ちはどのような様子か考える。  (例) 予想外のことが起こったとき、自分のパーソナルスペースやプライベートゾーンに侵入されたと感じたとき、痛みが伴ったとき……喜怒哀楽の感情が大きく揺れる。</p> <p>3 身近に潜む生活上の危険を考える。(SNS/他)</p> <p>4 事例(体験談)をもとに、どのように対処したらよいか考える。</p> <p>5 相談のしかたについて知る。</p> <p>(まとめ)</p> <p>6 自分事としてとらえ、今後気を付けるべきポイントについて考えをまとめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		
成果 (児童・生徒、教職員の感想等)	<p>児童: 見て見ぬふりをしないで、大人に助けを求め。トラブルの予感を掴む。嫌な予感がしたらやめようと言う。人の写真は勝手にSNSにのせない。</p> <p>教職員: 担任が行うのとは違って、デリケートな内容も専門性をもって実施できたと思う。</p>		

学校全体での 取組や工夫	<p>令和6年度より、学校全体で生命の安全教育について取り組み、当日の授業の様子を動画撮影しホームページにて2学期に保護者に公開した。1年生から4年生までは、養護教諭と人権担当を中心に学年ごとに学習をし、5・6年生は、養護教諭と海老名市教育委員会指導主事で学年ごとに学習をした。</p> <p>人権教育の視点からも考え、朝会の講話でも「自分と他者を大切にする」話をするなど継続して取り組んでいる。</p>
-----------------	--